

外国学は次の100年へ、



巻頭言

山根 聡*

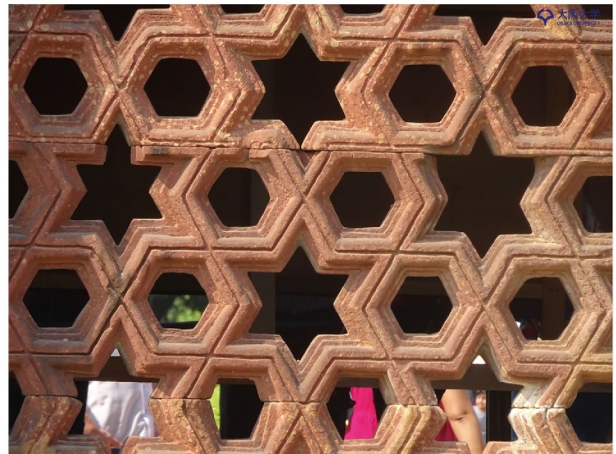
Foreign Studies for the Next 100 Years

「アンタの言うてることはわからん」

そう切り出されたら、人はどう受け止めるだろう。関西人同士なら、話の内容や意図が通じていないと考えるだろう。だが方言で繰り広げる会話や、日本語の話せない外国人との会話であれば、言語そのものが理解できないと考える。人は、言語を理解できるか否かという前提条件をもとに、「言うてること」が言語そのものなのか、あるいは話の内容なのかを区別する。言語が全く異なる場合、片言や身振りでも意思疎通できるが、高度な会話を交わすには、相応の言語運用能力が必要となる。

1921年、大阪市上本町に、小規模ながら8つの言語を学ぶ大阪外国語学校が設置された。「言語とそれを基底とする文化一般について理論と実践にわたって教授研究し、国際的な活動をするために必要な広い知識と高い教養を与え、言語を通じて外国に関する深い理解を有する有為な人材を養成すること」を理念に篤志家の寄付で建学された。そこに学んだ学生たちは1世紀にわたり実学を存分に活かしてきた。戦時は外国の事情を国策に活かし、高度経済成長期には海外を飛び回って日本製品を売り込んだり、外交官となって日本の立場を世界に示してきた。現在コロナ禍で中断されているが、外国人観光客や在日外国人人口が増大するなか、彼らの言語や文化を知っておかないと、「言うてること」が通じない時代に突入している。

筆者はインドやパキスタンなど南アジア地域を中心に5億近くの話者人口を持つウルドゥー語の文学や南アジアのイスラーム文化を専門とする。南アジアはヒンドゥー教徒が多数派を占めるが、実は5億以上のムスリム人口を抱え、11世紀から19世紀半ばまでムガル朝などムスリム政権が樹立されていた。香辛料と肉料理を融合させたインドカレーは16世紀ごろムガル朝のもと確立された。17世紀にはタージマハルが完成、クルアーン（コーラン）の文言や象嵌細工によるアラベスク模様で楽園のイメージが描かれた。ヨーロッパやアラブから伝わったミニアチュール（細密画）は隆盛を極め、ウルドゥー語も、現地語にアラビア語、ペルシア語、トルコ語の語彙や文字が加わって生まれた。筆者は数年前、デリーでイスラーム政権時の遺跡調査に参加したが、アーチ建設の技術では、イスラーム政権下で持ち送り式からアーチ式に変わっていた。幾何学模様の窓穴は外に向けて広がり、熱い味噌汁を飲むときに口をすぼめるように熱風が冷める効果を持った。石のドーム屋根を支える柱を一辺 $\sqrt{2}$ の正八角形にする技術、モスクのドームの頂点の下に立てば声が響き、



内側に狭まる窓枠
外気からの温度がやや低くなる（ラーホール）



* So YAMANE

1964年3月生まれ
大阪外国語大学外国語学研究所修了
(1989年)

パンジャブ大学大学院ウルドゥー文学
研究所修了 (1991年)

現在、大阪大学大学院言語文化研究科長
教授 博士(地域研究) 専門/ウルドゥー
文学、南アジア・イスラーム論

TEL: 072-730-5296

E-mail: soyamane.hmt@osaka-u.ac.jp



アーチ式建造物
頂点に楔を打ち込んでいる (デリー)
くさび



鏡の間
蝋燭一本で部屋全体がほの明るくなる (ラーホール)

礼拝の声を拡声させる役割、壁一面に小さな鏡を埋め込んだ宮殿で蝋燭1本を灯せば全ての鏡に光が映り込み、熱帯夜のなか最小限の炎で部屋がほの明るくなる技術など、着想力に富んでいる。

南アジア系移民社会は世界中にあり、ウルドゥー語の使用機会は意外に多い。会話は英語でも事足りるが、ウルドゥー語を口にすると彼らの表情がほぐれ、あっという間に親密になれる。商社マンの卒業生は、入社直後から関東地方の中古車業界を牛耳るパキスタン人担当となり、2年後にはカラチ支店に駐在した。石油関連会社に就職した者は、中東でのプラント建設に関わったが、その業務は、南アジア系出稼ぎ労働者の管理であった。勤務時間を守らず、作業効率が低下していたところ、卒業生がウルドゥー語で話しかけると彼らが飛び上がって喜び、勤務環境が激変して作業が捗った。後日ヨーロッパの石油会社は彼を3年契約で出向させ、新プラント建

設の人事を任せた。こうした逞しさは、外国語学部創立以来、外国人教員と学生が常に接点を持つことで、「言うてること」をわかってもらう姿勢として培われる。

さて大阪外国語学校は、戦後1949年に大阪外国語大学となった。1969年に大学院修士課程、1997年には博士課程言語社会研究科が設置された。習得できる言語数は徐々に増え、現在では日本語を含む25言語の専攻がある。日本語専攻とは、日本語やその文化を外国人に教える知識と技能を学ぶ。スウェーデン語やデンマーク語、スワヒリ語、ハンガリー語などわが国ではここだけで学べる言語もある。

2007年10月、大阪外国語大学は大阪大学と統合し、ここに「外国語学部を有する唯一の総合大学」が誕生した。旧大阪外国語大学の教員は、世界言語研究センター所属となり、1989年に設置されていた大阪大学大学院言語研究科のもとで言語社会専攻を担当した。これが2012年に言語文化研究科として拡充・再編され、外国語学部および言語文化研究科での教育と研究に携わりつつ、工学部、医学部、文学部などの学生にも外国語の授業を提供している。相手の文化を尊重し、現地の研究者らと対話する人々がさらに育つことに期待している。2021年4月、大阪大学グローバルキャンパスが箕面市船場の地に置かれ、外国語学部、言語社会専攻、日本語・日本文化専攻、そして留学生を対象とした日本語・日本文化研究センターがここに移転した。

2022年4月、言語文化研究科は文学研究科と統合・再編して「人文学研究科」となる。人文学研究科は、文学研究科の哲学、歴史学、文学を中心に学ぶ人文学専攻や芸術学専攻、日本学専攻に加えて、言語文化専攻と外国学専攻の5専攻の体制となる。日本学専攻は、大阪外国語大学時代から続く、外国人向け日本語教育を主体とする応用日本学コースと、文学研究科にあった日本語学、日本史、考古学などで構成される基盤日本学コースの2コースで構成され、わが国最大規模の日本学の教育・研究機関となった。これは2020年に「大阪大学グローバル日本学教育研究拠点」を発足させている。研究科には「人文学林」が置かれて全教員が地域や専門分野別に配置され、大学院生の研究を複数の教員が支える体制ができあがる。1世紀を経て続く外国とその文化を教育・研究する姿勢は次の1世紀に向け、Foreign Studies (外国学) としてさらに高みを目指す。